

フードテーマパークに関するアンケート 報告書

1333040030-1	酒井尚美
1333040045-0	中川いづみ
1233040047-0	野口恭平
1233040062-3	森岡奈央

- 調査日時

調査日時：6月6日(月)～6月13日(月)

調査場所：立命館大学・びわこくさつキャンパス内

調査対象：立命館大学学生および大学院生

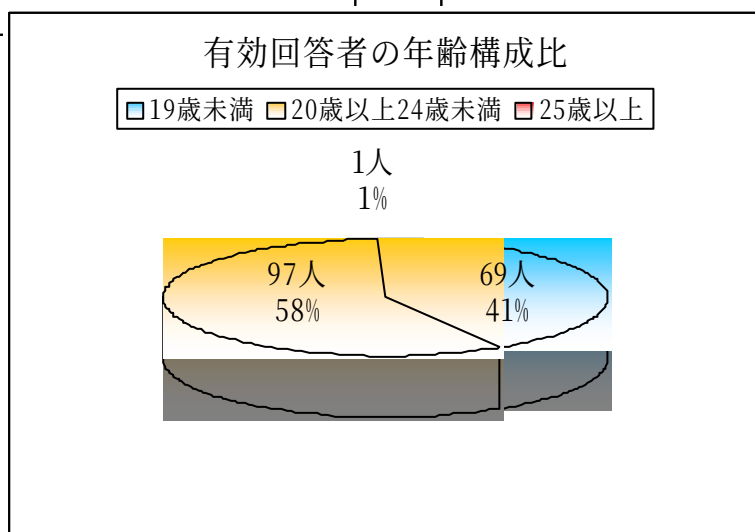
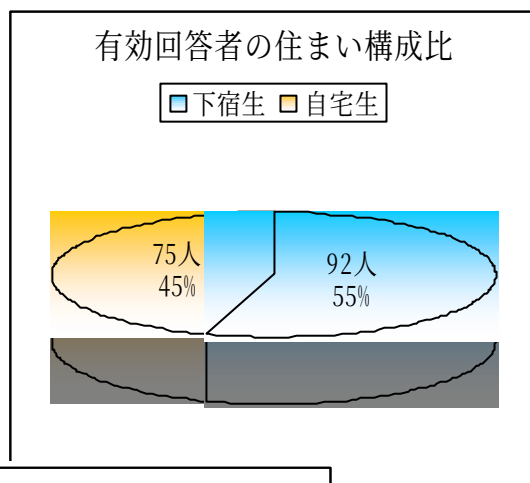
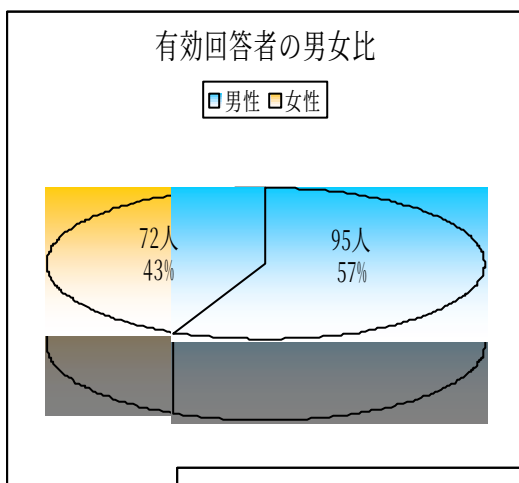
有効回答数：167人

調査方法：無作為に選んだ対象者にアンケートを依頼し、その場で回収した

- 調査目的

近年、外食産業とテーマパーク産業が落ち込む中、フードテーマパークの新規出店が相次いでおり、新しい娯楽施設として期待が高まっている。大学生が何をフードテーマパークに求めているのか、アンケートを通して実態を把握し分析することで、理想のフードテーマパークを見出す。

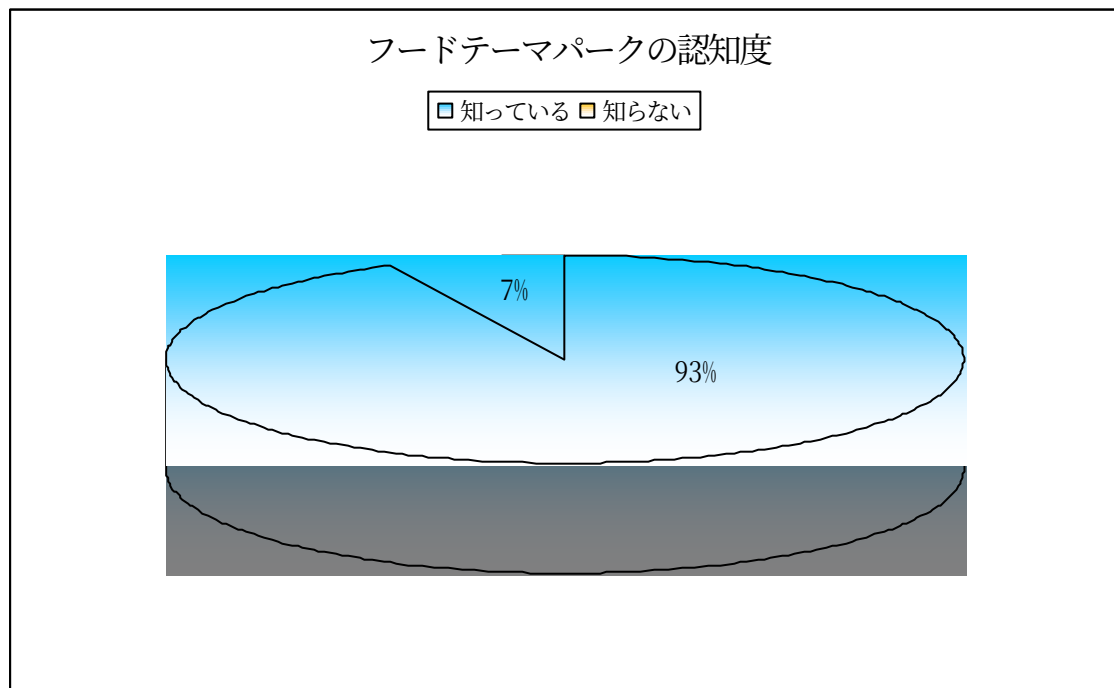
- 調査対象の構成



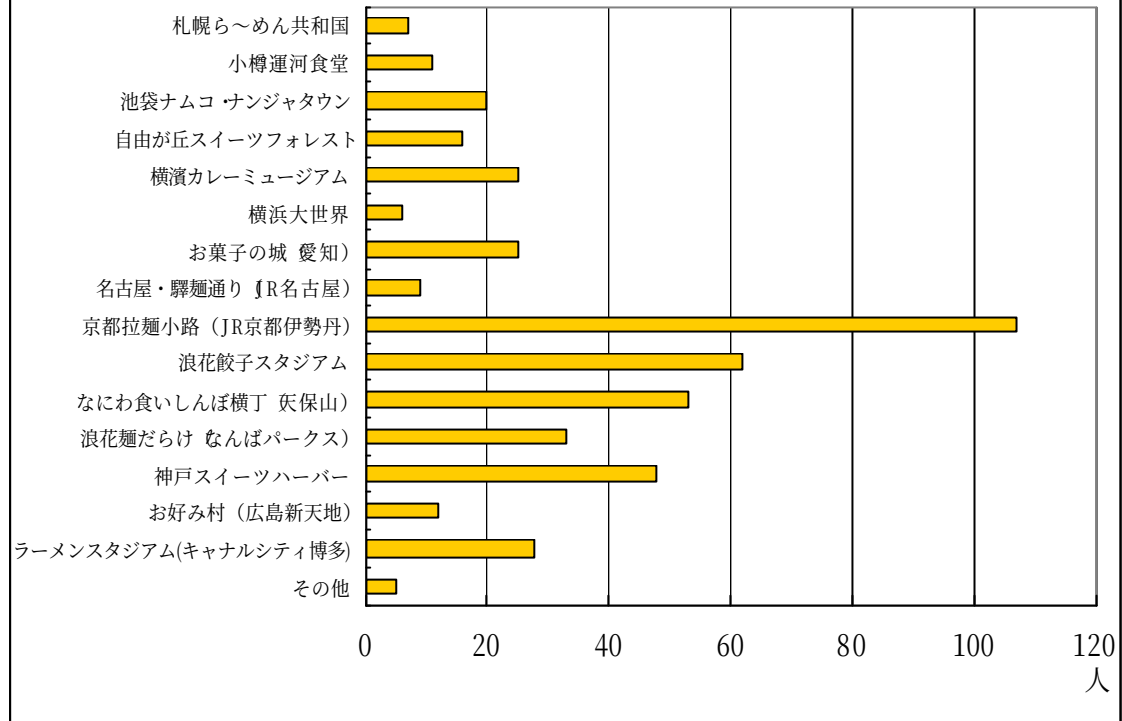
本調査は大学生と大学院生を対象としたアンケートであり、回答者の男女比は男性 57% 女性 43%と、男性が3分の2を占めた。住まいとしては、下宿が 55% 自宅生 45%と下宿生が過半数を占めた。少し偏りはあるが BKC の学生構成と似た結果となった。年齢は 19 歳未満 41%、20 歳以上 24 歳未満 58%、25 歳以上 1%となった。

- アンケート結果

- I. フードテーマパークに対する認知度

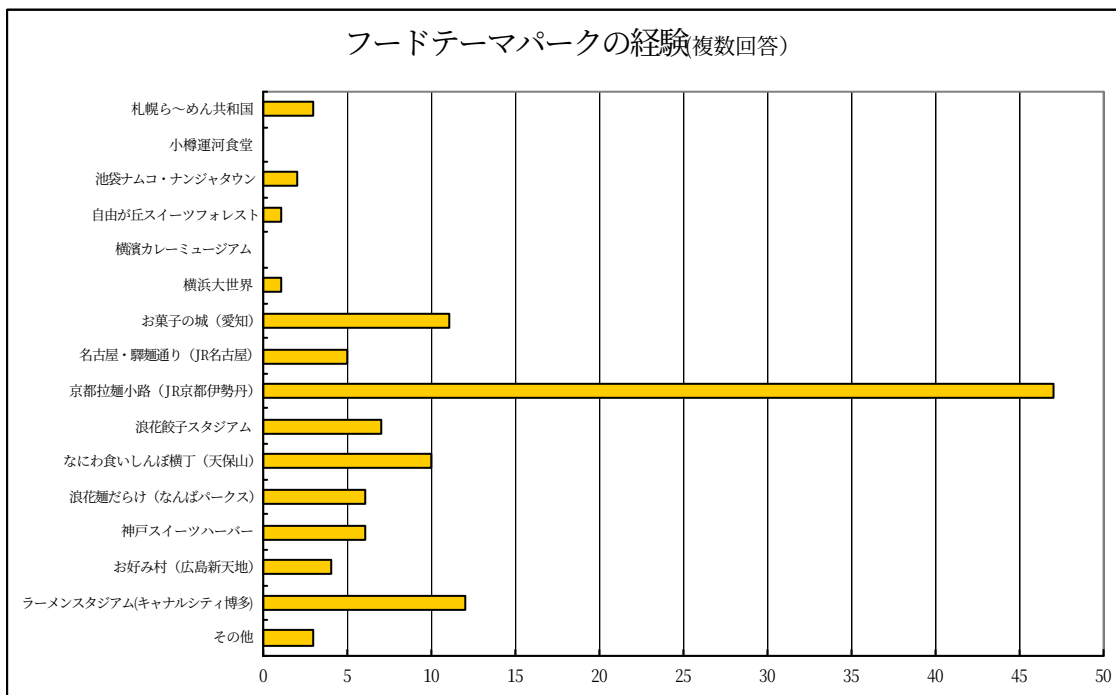
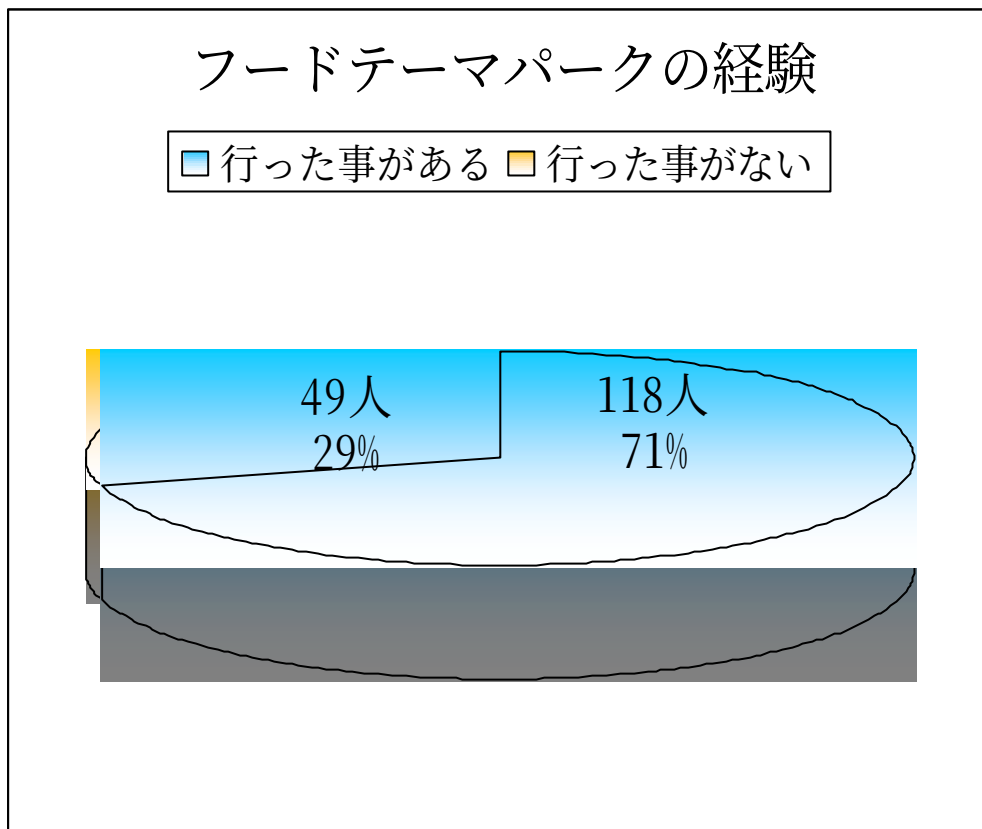


フードテーマパークの認知度



フードテーマパークの認知度は 93%という結果で、アンケートに回答してくれた人はほぼ認知していると言って良いだろう。その中で最も多かったのは京都拉麵小路で、110 人弱の人が認知していた。拉麵小路は JR 京都伊勢丹内にあり、BKC から最も近いフードテーマパークであるため、このような結果になったと思われる。また浪速餃子スタジアム、なにわくいしんぼ横丁、神戸スイーツハーバーを知っていると回答した人も多く、やはり関西のフードテーマパークは認知度が比較的高いと言えるだろう。

II. フードテーマパークの経験

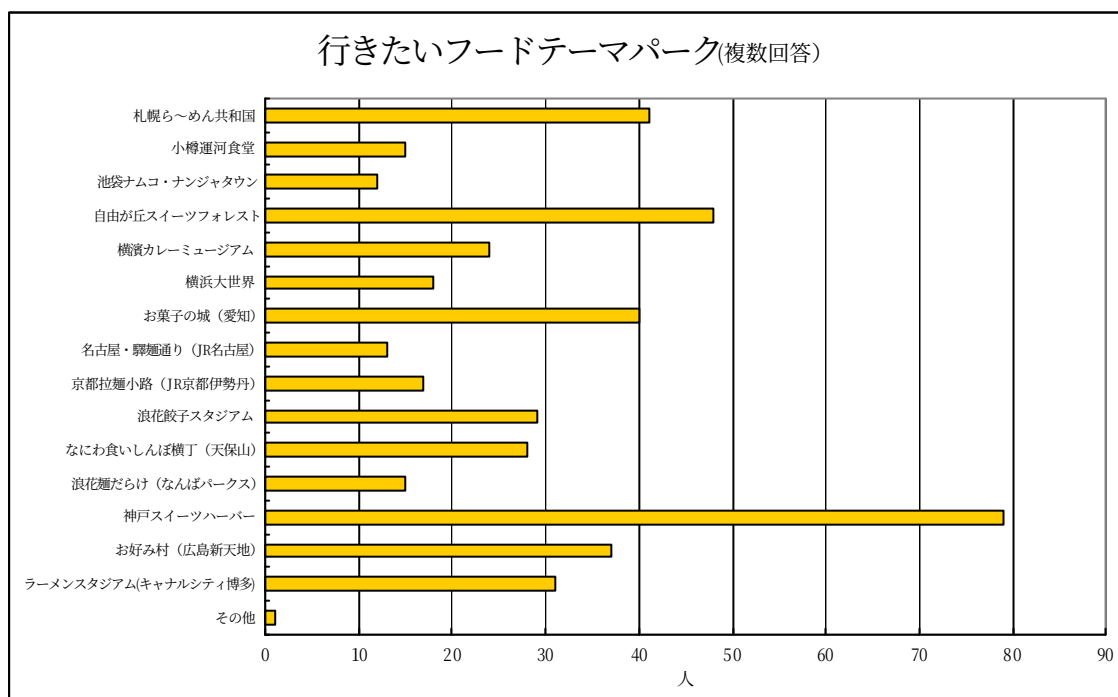


フードテーマパークに行ったことがある回答者は 118 人で 71%を占め、約 4 人に 1 人が

フードテーマパークに行った経験がある。行ったことのあるフードテーマパークを聞くと、京都拉麺小路が 47 人と圧倒的に多い結果となった。フードテーマパークに行ったことがある回答者のうち、65%が京都拉麺小路に行ったと答えた。

認知度についての質問で、関西のフードテーマパークの認知度は高めだったが、京都拉麺小路を除くと、意外に行った経験が少ないことがわかった。

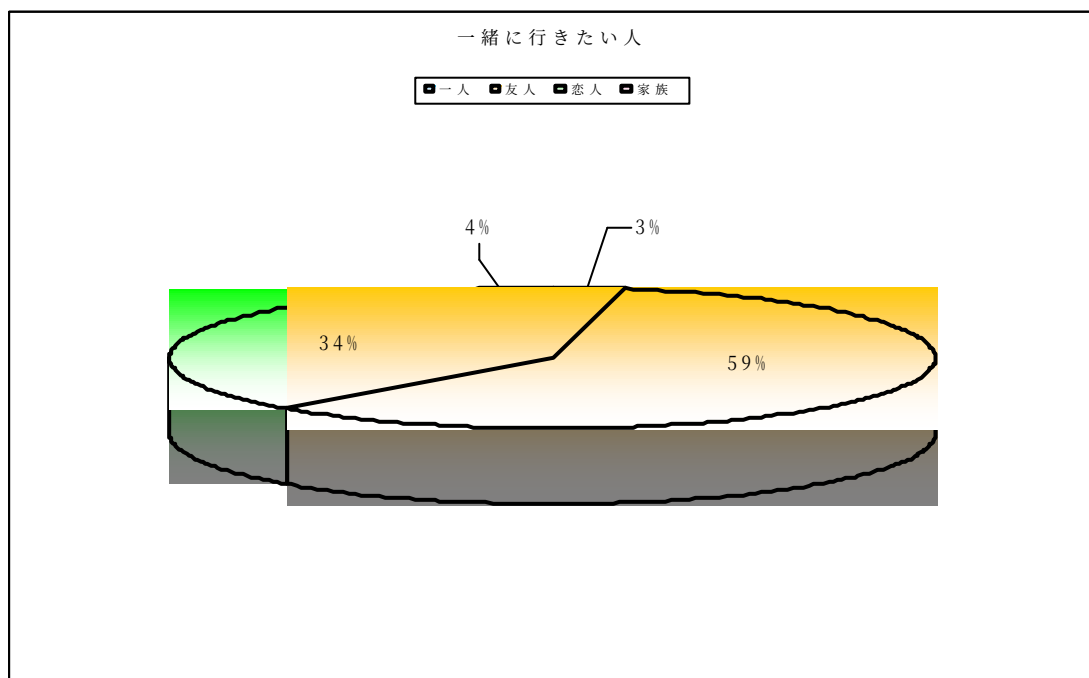
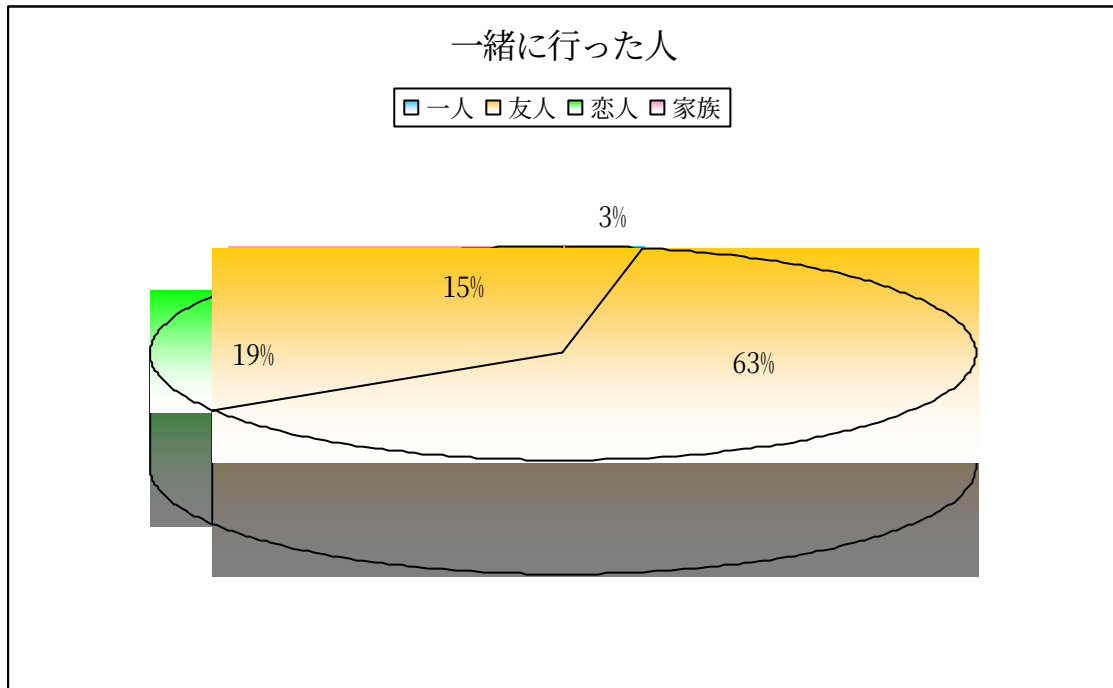
III. 行きたいフードテーマパーク



行きたいフードテーマパークを聞くと神戸スイーツハーバーや自由が丘スイーツフォレストなどスイーツ系の回答が目立つ。また札幌ラーメン共和国や広島のお好み村、博多のラーメンスタジアムなど遠方のフードテーマパークを選んだ人も多くいた。

- 分析

大学生にとっての理想のフードテーマパークを、Ⅰ．男女の嗜好の違い Ⅱ・フードテーマパークの形態の違い から分析する。



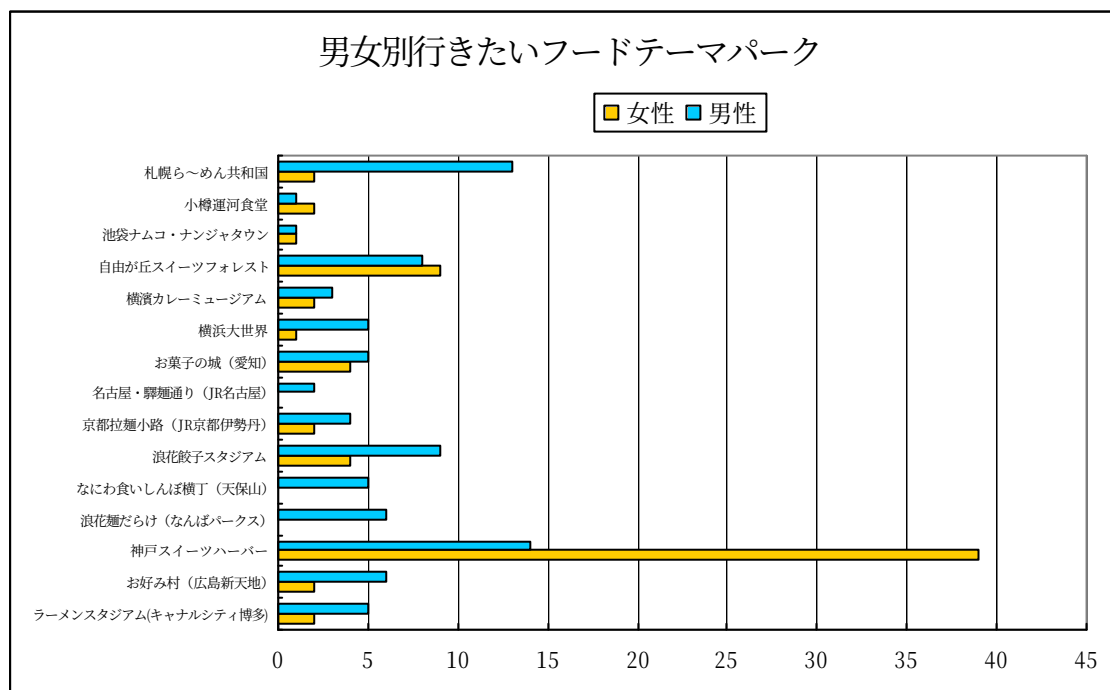
一番印象に残ったフードテーマパークに一緒に行った人、一番行きたいフードテーマパークに一緒に行きたい人のデータを取ってみた。一緒に行った人を見ると 63%が友人、

続いて 19%で恋人、15%で家族という結果となった。次に一緒に行きたい人は、59%が友人と行きたいを選択し、一緒に行った人とほぼ同じ割合となった。ここで目をつけたのが恋人と行きたいを選択した人が 34%いるということ。一緒に行った人は 19%であったので 15%も上昇している。

ここから「恋人と行きたいけど友達・家族と行こう」というような理想と現実のギャップが見て取れる。この恋人を引き裂く要因は何であるのか分析してみることにする。

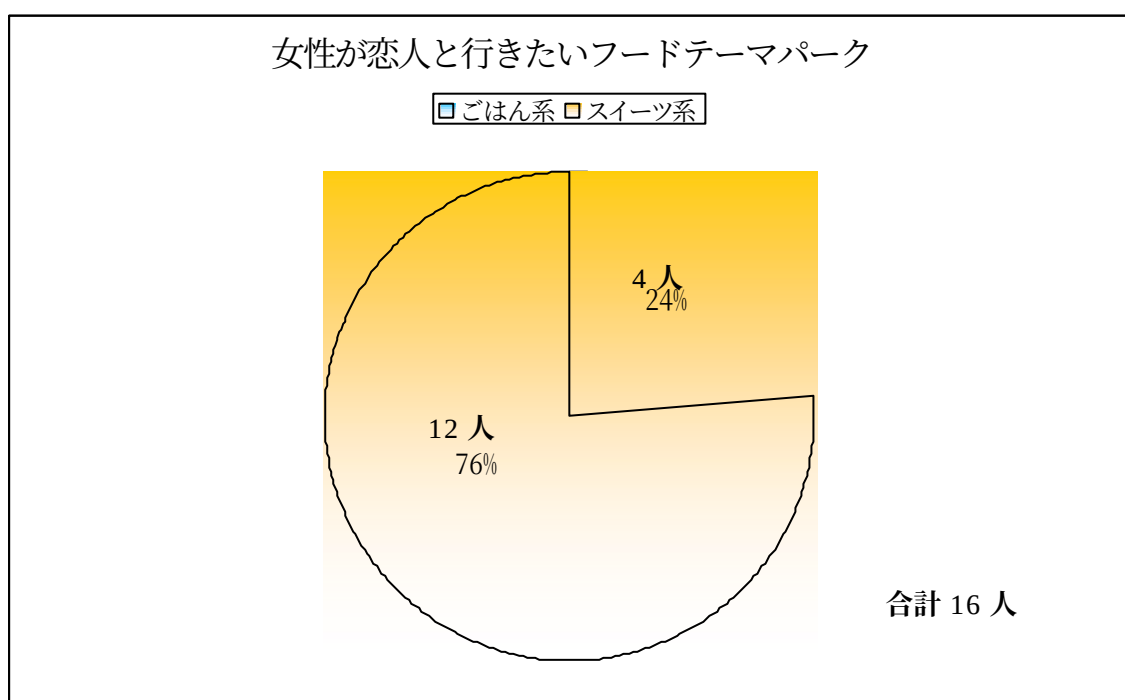
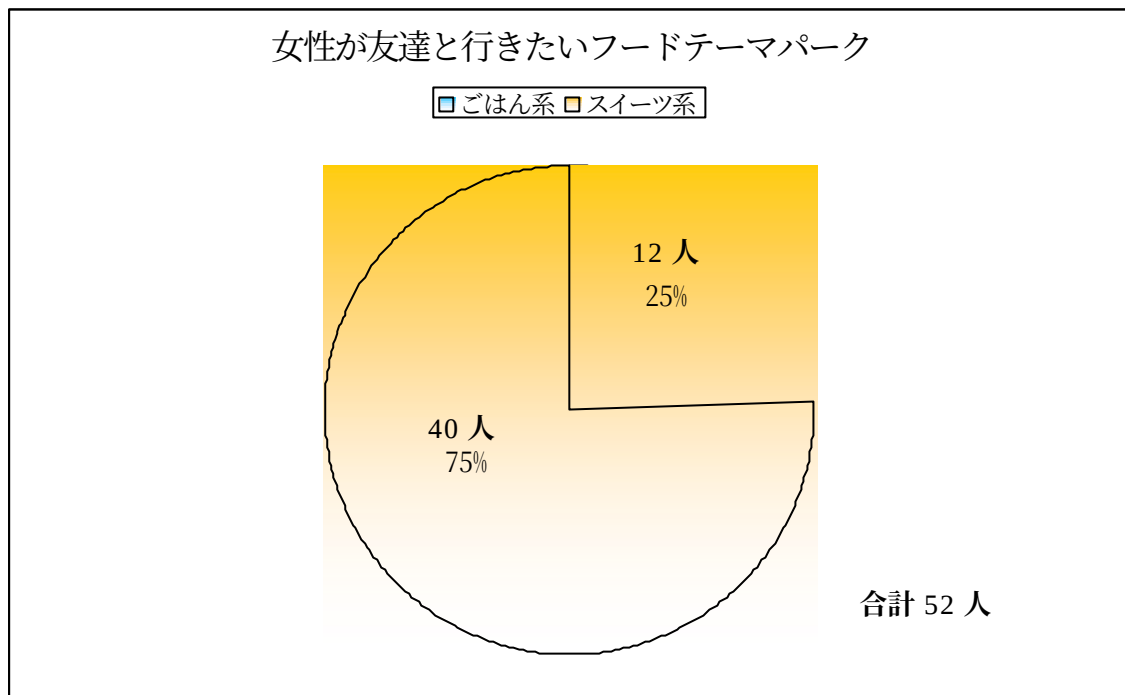
I. 男女別スイーツ哲学

①男女別行きたいフードテーマパーク



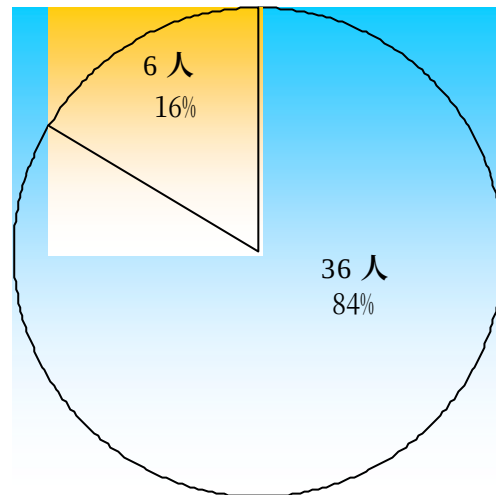
上のグラフは一番行きたいフードテーマパークを男女別に分類したものである。男性は札幌ら〜めん共和国や浪花ぎょうぎスタジアムなどのごはん系から、神戸スイーツハーバーや自由が丘スイーツフォレストなどのスイーツ系など幅広いジャンルのフードテーマパークに行きたいと考えていることがわかる。対して女性は神戸スイーツハーバー、自由が丘スイーツフォレストの 2 強が際立っており、圧倒的に“スイーツ”をテーマとしたフードテーマパークに行きたいと考えていることがわかる。

②男女別 友達と行きたいフードテーマパーク・恋人と行きたいフードテーマパーク



男性が友達と行きたいフードテーマパーク

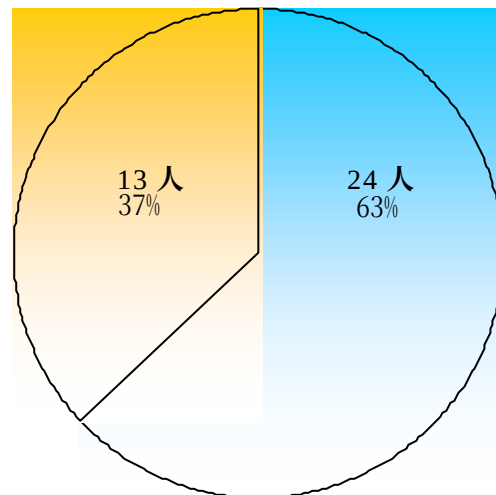
□ごはん系 □スイーツ系



合計 42 人

男性が恋人と行きたいフードテーマパーク

□ごはん系 □スイーツ系



合計 37 人

次に一番行きたいフードテーマパークを、ラーメン・餃子などのごはん系と、神戸・自由が丘・お菓子の城のスイーツ系に分け、男女それぞれ友達と行きたいフードテーマパーク・恋人と行きたいフードテーマパークに分類した。上記4つのグラフがそれである。すると、女性は恋人、友達と行きたい割合の変化はなく、とにかくスイーツ系フードテーマパークに行きたいということがわかる。男性は友達となら 16%だったスイーツ系が恋人となら 37%に増えている。つまり、行くならごはん系のフードテーマパークに行きたいが、

恋人と行くならスイーツ系に行くのも良いと考えていることがわかる。また、男性は友達と行きたい人と恋人と行きたい人の割合は同じくらいであったが、女性は恋人と行きたい人の割合が25%程となった。

③男女別 スイーツ系フードテーマパークに求める項目

	味	種類	料金	利便性	アクセス	雰囲気
全体	8.40	6.39	6.05	4.07	3.83	6.27
男性	8.64	5.96	6.05	4.30	3.55	6.49
女性	7.81	7.40	6.04	3.54	4.48	5.73

上のデータはスイーツのフードテーマパークに行きたいという男女を対象に、味・種類・料金・利便性・アクセス・雰囲気の項目の中で何を重視するか調査したもので、ここでは重視する項目ほど高得点になるように表記している。

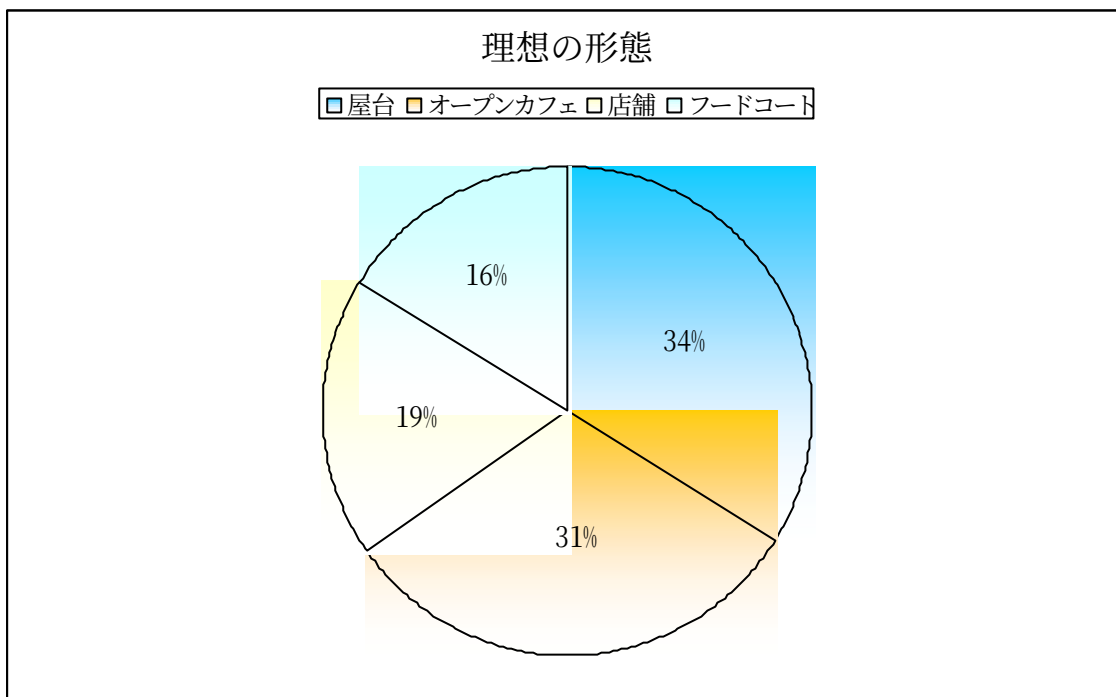
このデータより、食べ物を扱うフードテーマパークにおいては味を重視する、というのは男女ともに変わりなく1位でした。そして注目すべきは雰囲気と種類の項目。男性がスイーツ系フードテーマパークに求めるのは、味を除くと雰囲気が一番という結果が出た。このことから、“デートをするなら女性が喜ぶような雰囲気がある場所”としてスイーツのフードテーマパークを選択する傾向があると考えた。一方女性を見てみると、雰囲気はそれほど高くなく料金よりもランクが下であった。では何を重視するのかというと、味に迫るほどの高得点を得て“種類”であった。“スイーツを食べに行くんだったらお腹いっぱいたべなきゃ”という声が聞こえてきそうな高得点ぶりだった。

結論として、男性の雰囲気、女性の種類。スイーツに対して求めるものの違いから、フードテーマパークに一緒に行く人・行きたい人のギャップが生じると考えにいたる。

“スイーツを頬張るその姿…”恋人に見せないのも女性ならではの配慮なのかもしれません。

Ⅱ. 理想の形態は？

①理想の形態

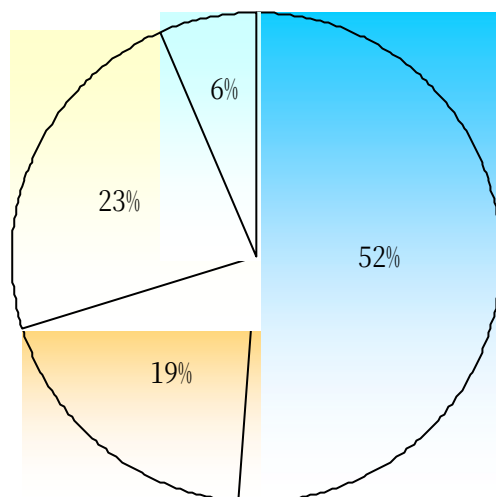


理想のフードテーマパークの形態について質問をしたところ、屋台とオープンカフェで全体の 65%を占める結果となった。現在、フードテーマパークは店舗型もしくはフードコート型の形態が主流となっており、その中でこのような結果が出たということは、現在の主流、店舗型やフードコート型には満足していない、もしくはフードテーマパークという非日常空間においては今までにないもっと変わった形態を望んでいる人が多いと予測できる。

②オープンカフェと屋台に求めるもの

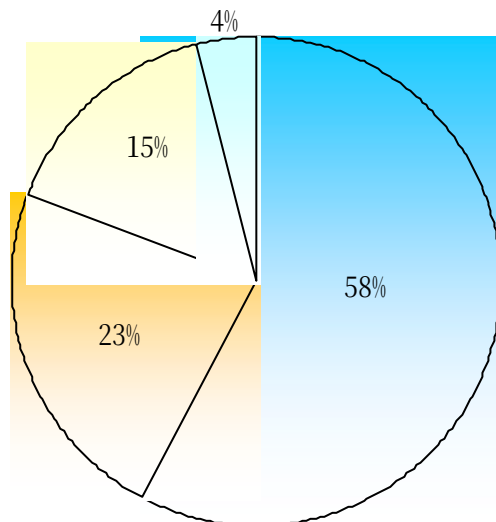
雰囲気重要視する割合 :オープンカフェ

□1位 □2位 □3位 □4位



料金を重要視する割合 :屋台

□1位 □2位 □3位 □4位



オープンカフェを選んだ人の中で料金、施設の利便性、アクセス、雰囲気の4つの項目を順位付けしてもらい、そのうちの雰囲気を取り出した。その結果52%もの人が雰囲気を一位とし、二位も含めると全体の71%にもなった。つまりオープンカフェを選んだ人は雰囲気を重視する割合が高いことがわかる。

一方、屋台を選んだ人に自由回答式でなぜ屋台を選んだかという質問をしてみると、「雰

囲気」という意見が多くあった。しかし、意外なことに屋台回答者に先ほどの順位付けの質問をしてみたところ、料金、施設の利便性、アクセス、雰囲気の項目の中で料金を一位にした人が 58%、二位と合わせると 81%にもなり、屋台を選んだ人は料金を重視する傾向にあることがわかった。

一般的にオープンカフェは開放的でおしゃれな時間をゆったりと過ごすイメージがあり、こういった理由から雰囲気重視の人がオープンカフェを選んだものと考えられる。一方、屋台には親しみやすい、気取らずに気軽に入れるといったイメージがあり、こういった雰囲気の店は比較的料金も安く設定されている。つまり料金を重視する人は屋台の親しみやすさ、気軽といった雰囲気から料金設定の低いであろう屋台を選んだものと考えられる。

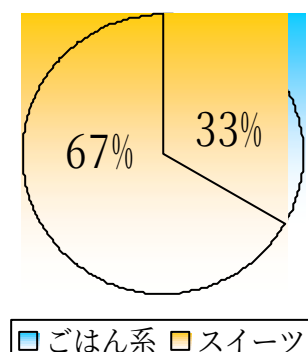
● まとめ

☆ 大学生をターゲットにしたフードテーマパークをつくるなら？

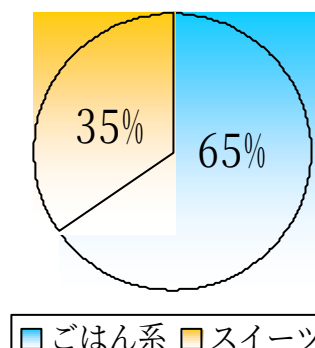
理想のフードテーマパークの種類は？という質問に対する答えを、すでにフードテーマパークとして存在するものを先ほどと同じようにごはん系、スイーツ系に分類した。その後分類できなかったもの、まだ存在しないものの中で一番回答数が多かったのが「世界の料理」だった。現在あるフードテーマパークは、中華、ラーメン、パンなど特定のジャンルに絞っているものばかりである。そこで私たちは、世界中からあらゆる食べ物を集めた新しい形のフードテーマパークを提案する。形態としては、先ほどの分析結果から、屋台とオープンカフェを採用する。

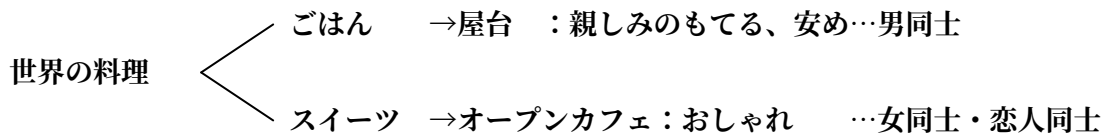
以下のグラフからもわかるように、屋台に求める食べ物はごはん系、オープンカフェに求めるものはスイーツと圧倒的に分かれていることから、

オープンカフェに求める食べ物



屋台に求める食べ物





となる。以上のことを踏まえた上で、私たちが考えた一つのフードテーマパークのプランを紹介したい。

🌈 「リトル・ワールド」 概要

- ・キャッチフレーズ： グローバルを体感できるテーマパーク
- ・基本テーマ：Global Fusion
- ・メインキャラクター：エレポン（ゾウ）
- ・テーマタウン構成：屋台→マガンダン広場（フィリピン語でこんばんは）
トワイライトの泉
オープンカフェ→シャローム広場（ヘブライ語でこんにちは）
- ・店舗構成：巻末資料参考

屋台ゾーンであるマガンダン広場では、各店が東南アジアや中東の雰囲気を持った屋台形態で構成され、全体として夜の路地裏をイメージしたうす暗く怪しいながらもにぎやかなムードが漂う。料理は屋台の雰囲気に合うよう気軽に気取らない料理（ケバブ・飲茶・パエリア・ピザ等々のメジャーな世界の料理から、マイナーな料理まで）を国籍問わず提供する。また多くの種類を楽しめるように、つまめる程度の少ない量から注文できる。また、購入した食べ物はゾーンに無造作に置かれたテーブルで食する。

オープンカフェゾーンであるシャローム広場はヨーロッパ風の街並みと石畳で造られた広場で、昼下がりを楽しく過ごす人々が集うイメージである。オープンカフェ形式のため店外に置かれる椅子やテーブルは各店舗オリジナルなものを使用するが、店の境界といった観念はないためどこかの店で食べるというよりは、広場でスイーツとおしゃべりを楽しむという感じである。提供するスイーツは店ごとに「ヨーロッパの焼き菓子」や「ア



ジアンスイーツ」などテーマを定め、シュークリーム・タルト・ジェラート・ティラミス・パンナコッタ・トルコアイス・杏仁豆腐・タピオカ・ココナッツ系・マンゴー系等々、国籍問わず、多種類提供する。

マガンダン広場とシャローム広場はそれぞれ独立しているが、両方を自由に行き来することも可能である。その中間ゾーンであるトワイライトの泉はくつろぎのスペースとしテーマパークで楽しんだ疲れを現実の世界に引き戻すことなく癒やすことができる。シャローム広場は明るい空の昼、マガンダン広場は薄暗い夜をイメージしているため、トワイライトの泉は夕方をテーマとする。噴水や植物で構成し、食後のくつろぎを楽しむことができる。

資料：店舗構成

